

第2章

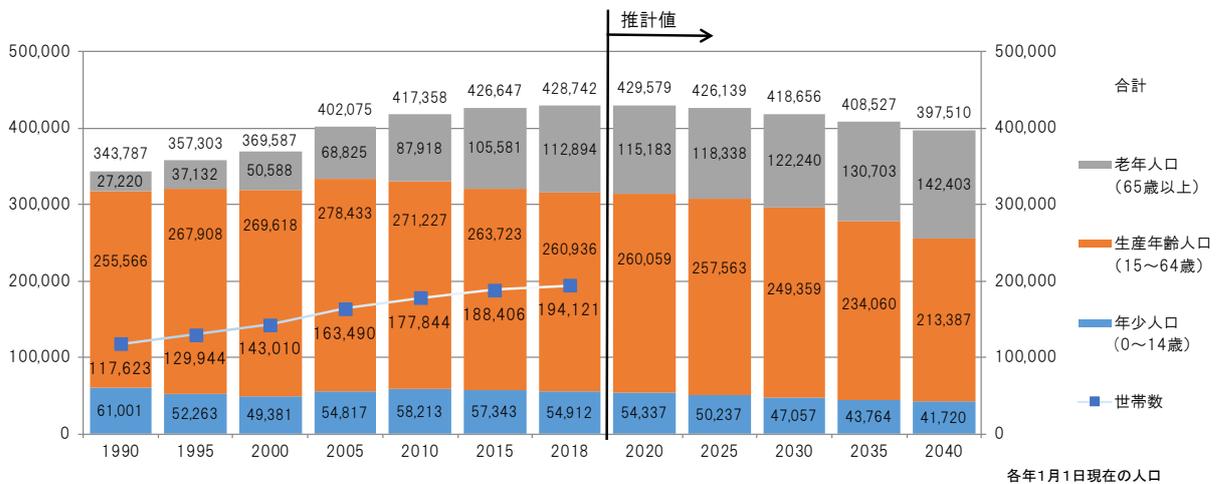
町田市のスポーツに関する現状と課題

町田市のスポーツに関する現状と課題

1. 町田市の現状

(1) 人口

町田市の人口は、2018年に42万8742人となっており、将来人口推計によると、2020年にピークをむかえ、その後緩やかに減少し、2040年には39万7510人になると見込まれています。生産年齢人口（15歳～64歳）は減少する一方で、老年人口（65歳以上）は増加することが見込まれています。



出典：町田市 HP より作成

(2) 町田市未来づくりプランにおける位置づけ

将来の町田市のあるべき姿を見据え、まちづくりの方向性を示す市の基本計画「まちだ未来づくりプラン」において、スポーツの推進は「基本目標Ⅲ 賑わいのあるまちをつくる」に位置づけられ、様々な世代がスポーツを核に活躍し、交流できる場づくりの取組やまちの魅力を発掘、創造し発信していく取組を進めていくこととされています。

町田市のまちづくり基本目標

- 基本目標Ⅰ 将来を担う人が育つまちをつくる
- 基本目標Ⅱ 安心して生活できるまちをつくる
- 基本目標Ⅲ 賑わいのあるまちをつくる
- 基本目標Ⅳ 暮らしやすいまちをつくる

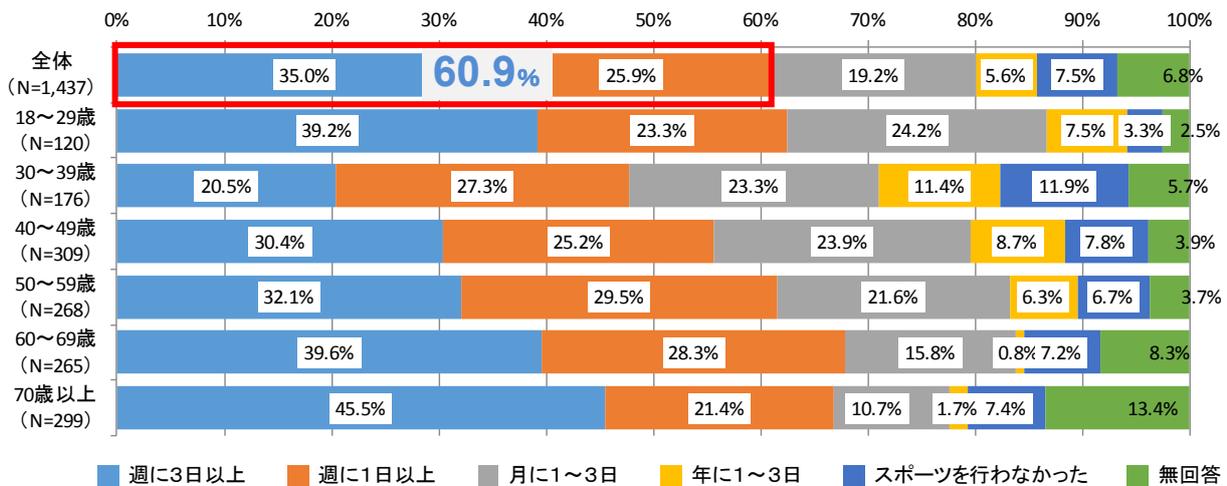
出典：町田市5ヵ年計画 17-21

2. 町田市のスポーツ施策等に関する動向

(1) 市民意識調査の結果

① 市民 スポーツの実施頻度

- ▶週に1日以上スポーツを実施する割合は、市民全体では60.9%となっています。
- ▶世代別にみると30～39歳が週に1日以上スポーツを実施する割合が最も低くなっています。



出典：町田市スポーツに関する市民意識調査アンケート（2018年度実施）

【参考】東京都の調査の結果

- ・週に1日以上実施：**56.3%**
- ・1年間にスポーツを実施しなかった都民（18歳以上）の割合：**15.0%**

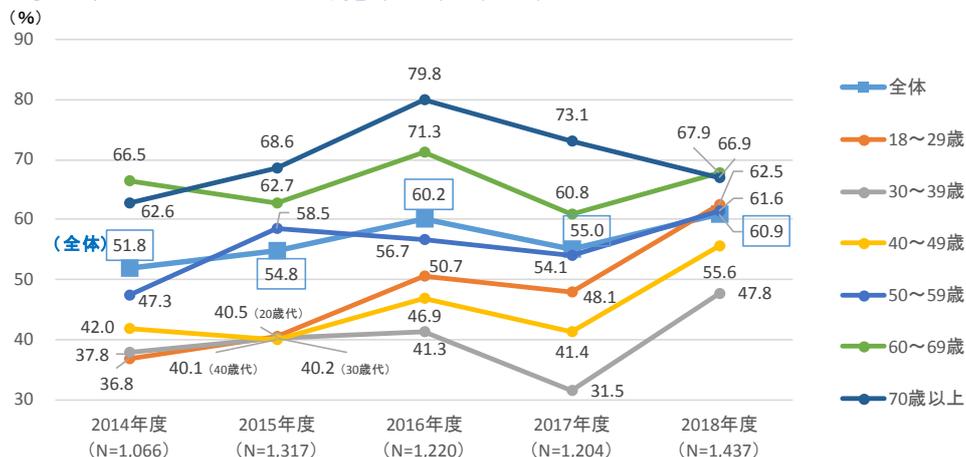
出典「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査（平成29年1月）」

【参考】国の調査の結果

- ・週に1日以上実施：**51.5%**

出典「スポーツの実施状況等に関する世論調査（スポーツ庁、平成29年11～12月調査）」

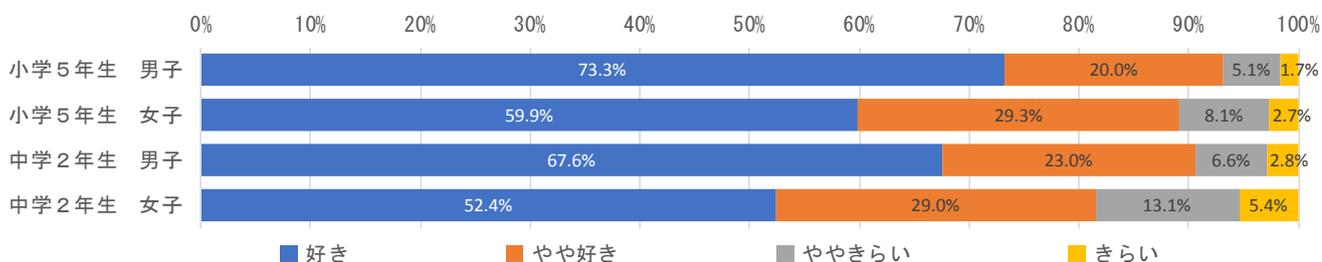
【参考】町田市民のスポーツ実施率の経年比較



出典：町田市スポーツに関する市民意識調査アンケート（2014年度～2018年度）

② 小中学生 運動やスポーツの好き嫌い

▶小中学生の運動やスポーツの好き嫌いをみると、年齢があがるにつれて「好き」の割合が減少しています。

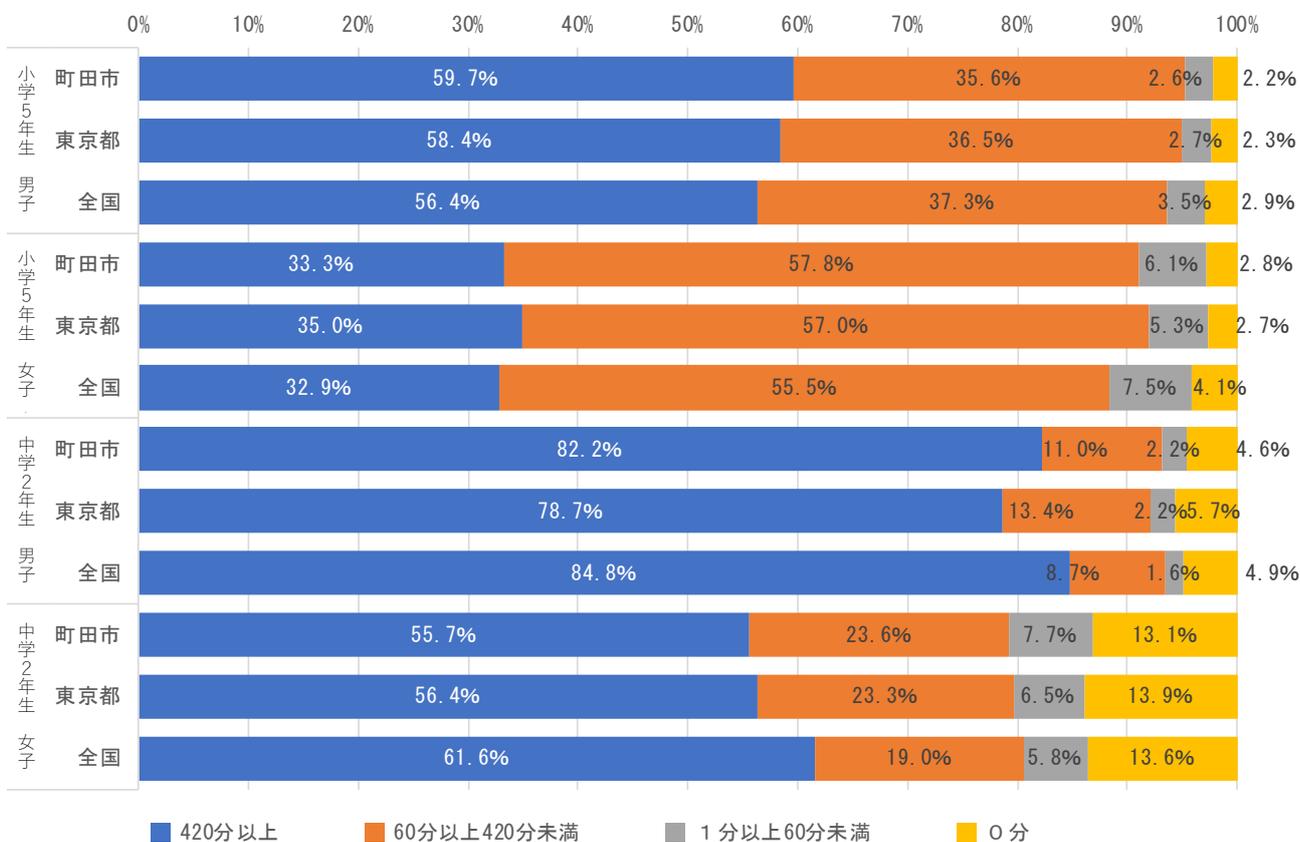


出典：町田市 体力向上推進プラン（2017年度実施）

③ 小中学生 1週間の総運動時間

▶小学5年生男子は、1週間の総運動時間が420分以上である児童の割合が、東京都や全国平均を上回っています。

▶中学2年生女子は、1週間の総運動時間が420分以上である生徒の割合が、東京都や全国平均を下回っており、約7.6人に1人はまったく運動していないことが分かります。

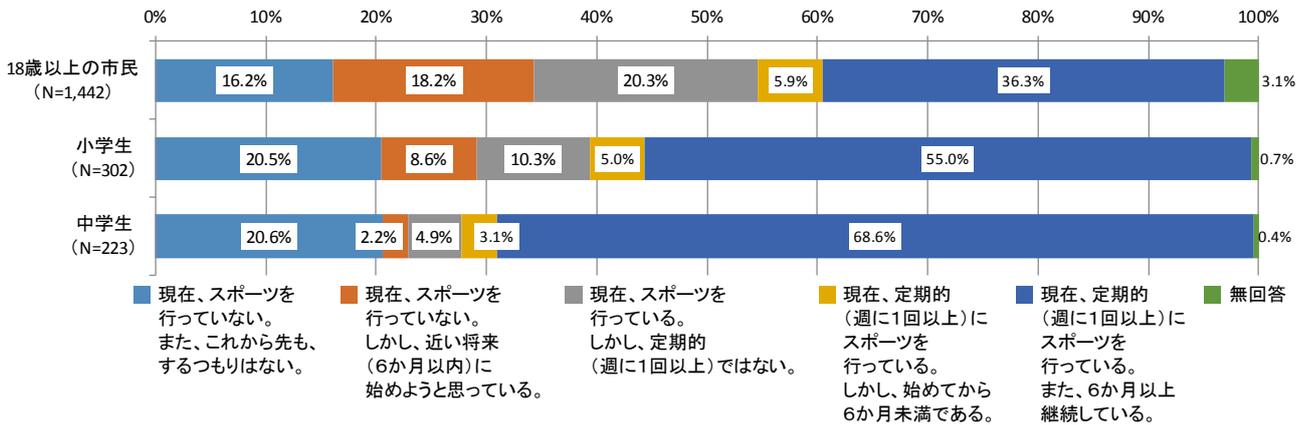


出典：町田市 体力向上推進プラン（2017年度実施）

④ 市民・小中学生

スポーツの実施状況や考え方

- ▶ スポーツを行っておらず、今後もするつもりがない人は、市民で 16.2%、小学生で 20.5%、中学生で 20.6%となっています。
- ▶ 中学生では定期的にスポーツを行っており、これまでも継続している人が7割近くとなっています。

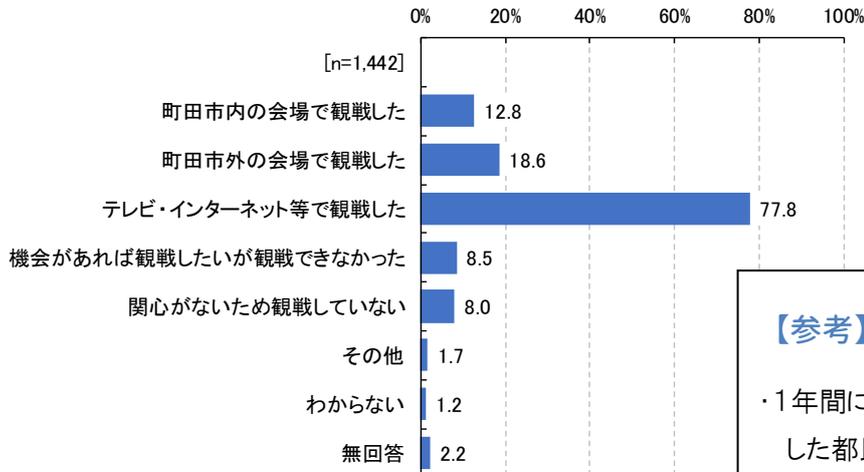


出典：(市民) 町田市スポーツに関する市民意識調査アンケート (2018年度実施)
 (小学生、中学生) スポーツについてのアンケート (2017年度実施)

⑤ 市民

スポーツ観戦の状況

- ▶ テレビ・インターネット等でスポーツを観戦した人は 77.8%となっています。
- ▶ 町田市内の会場で観戦した人は 12.8%となっています。
- ▶ 関心がなく、スポーツを観戦していない人は 8.0%となっています。



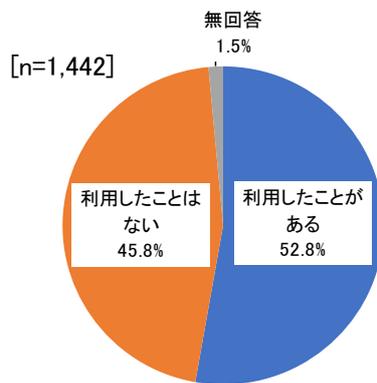
【参考】 東京都の調査結果

・1年間にスポーツを直接観戦した都民(18歳以上)の割合：**39.3%**

出典：(市民) 町田市スポーツに関する市民意識調査アンケート (2018年度実施)

⑥ 市民 市のスポーツ施設の利用経験

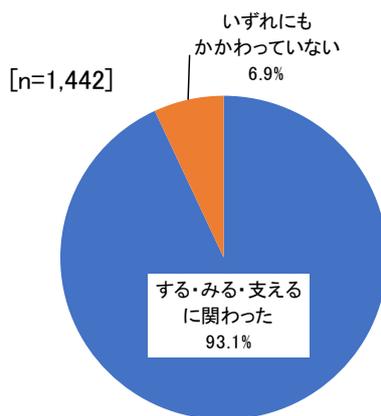
▶市のスポーツ施設を利用したことがある人は52.8%となっています。



出典：町田市スポーツに関する市民意識調査アンケート（2018年度実施）

⑦ 市民 スポーツに関わった経験

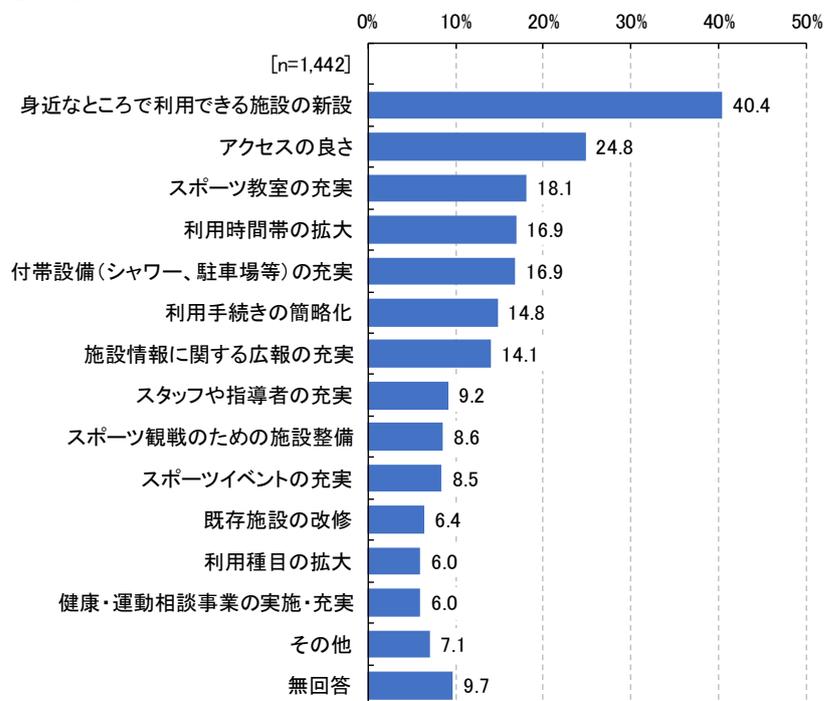
▶なんらかのスポーツを「実施した」「町田市内で直接観戦した」「ボランティア活動をした」のいずれか1つにでも該当するという人は93.1%となっています。



出典：町田市スポーツに関する市民意識調査アンケート（2018年度実施）

⑧ 市民 施設に求めること

- ▶ 身近なところで利用できる施設の新設、アクセスの良さを求める回答が多くなっています。
- ▶ 次いで、スポーツ教室の充実、利用時間帯の拡大、付帯設備の充実を求める回答が多くなっています。



出典：町田市スポーツに関する市民意識調査アンケート（2018年度実施）



陸上競技場



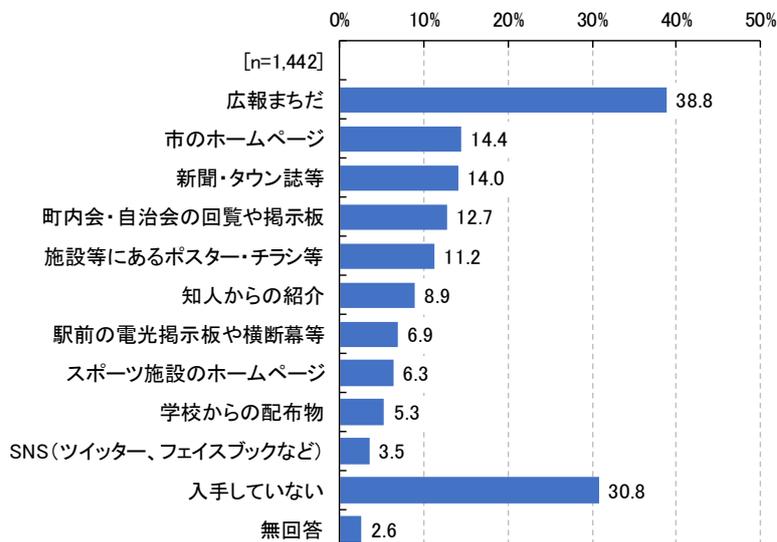
室内プール(50mプール)



総合体育館

⑨ 市民 スポーツ情報の活用

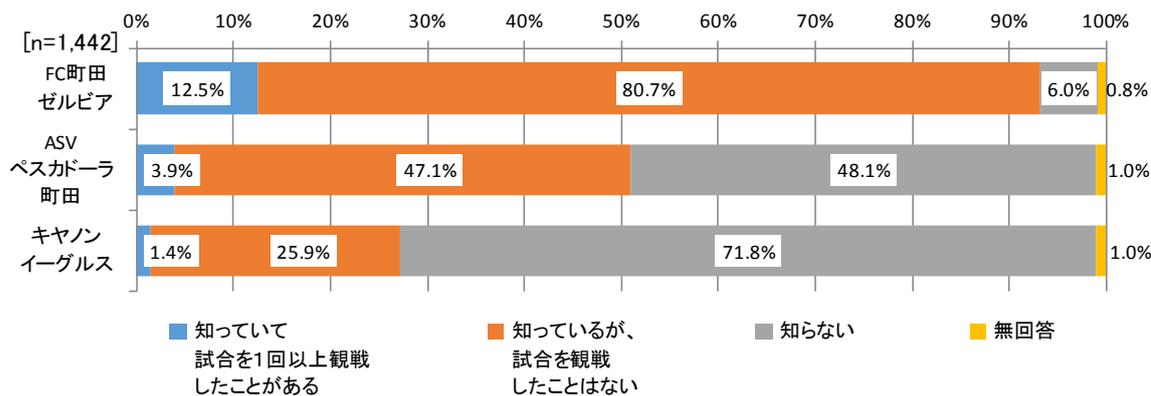
- ▶ 広報まちだを通して情報を入手している人が最も多く 38.8%となっています。
- ▶ 一方で、情報を入手していない人が 30.8%となっています。



出典：町田市スポーツに関する市民意識調査アンケート（2018年度実施）

⑩ 市民 ホームタウンチームの認知度

- ▶ チームの認知度（「知らない」「無回答」以外の回答の合計）は、「FC 町田ゼルビア」が 93.2%、「ASV ペスカドーラ町田」が 50.9%、「キャノンイーグルス」が 27.2%となっています。



出典：町田市スポーツに関する市民意識調査アンケート（2018年度実施）



FC 町田ゼルビア



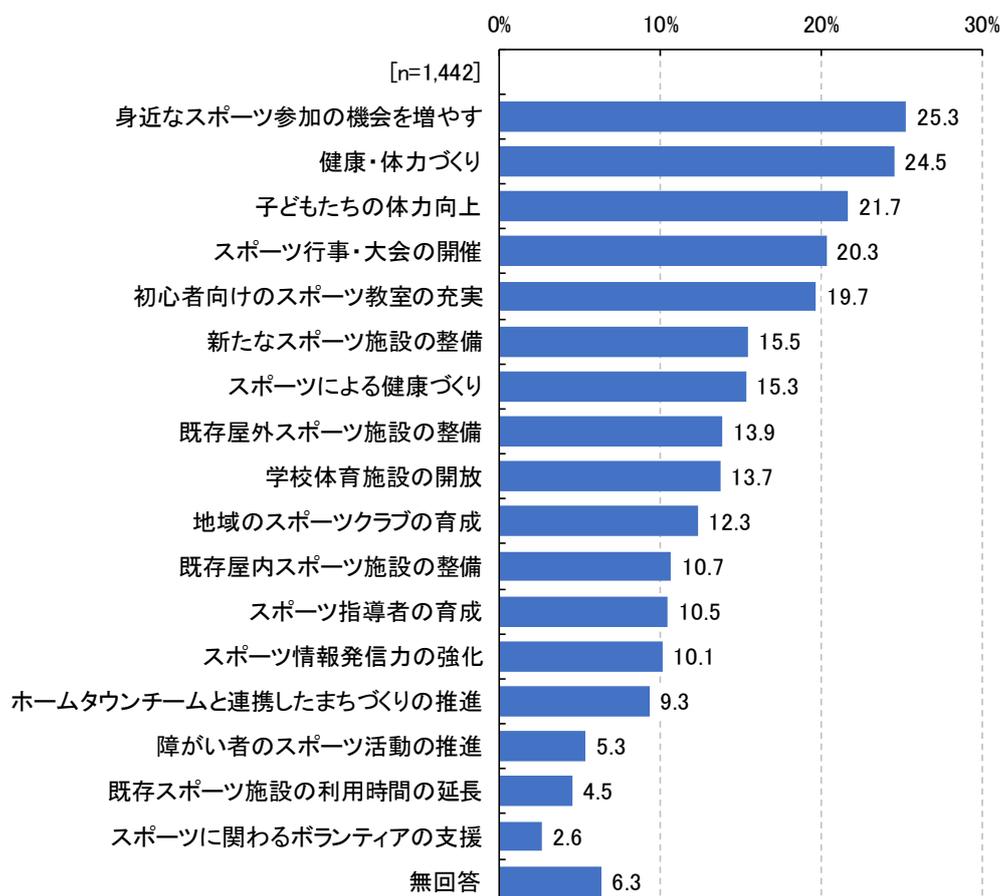
ASV ペスカドーラ町田



キャノンイーグルス

⑪ 市民 市が力を入れるべきだと思うこと

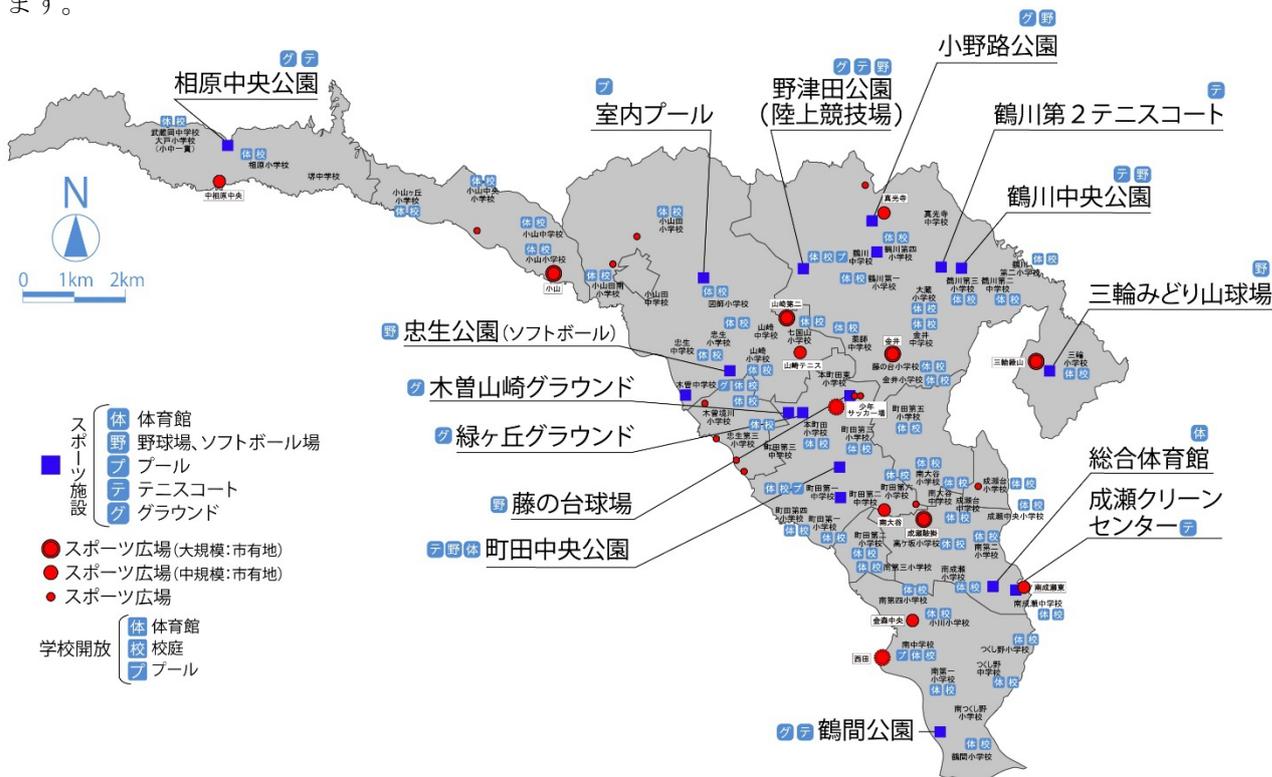
- ▶ 「身近なスポーツ参加の機会を増やす」が25.3%と最も多くなっています。
- ▶ 「健康・体力づくり」「子どもたちの体力向上」「スポーツ行事・大会の開催」という回答が20%以上と、多くなっています。



出典：町田市スポーツに関する市民意識調査アンケート（2018年度実施）

(2) 市内のスポーツ施設

市民の身近な場所でのスポーツ環境の充実を目指し、市内各所にスポーツ施設を整備しています。



「東京都における公立スポーツ施設 平成 29 年度」によると、町田市のスポーツの施設の合計数は 23 施設となっており、多摩 26 市中 3 番目に多くなっています。

1 施設あたりの市民の数は 18,655 人となっており、人口に対する施設の数是多摩 26 市中 23 番目となっています。

市の人口とスポーツ施設の数（多摩 26 市と比較）

①	②	③	④	⑤	⑥
自治体名	人口	施設数	③の順位 (26 市中)	1 施設あたりの市民の数	⑤の順位 (26 市中)
府中市	259, 515	50	1 位	5,190.3	3 位
立川市	182, 715	24	2 位	7,613.1	8 位
町田市	429, 070	23	3 位	18,655.2	23 位
多摩市	148, 815	21	4 位	7,086.4	7 位
八王子市	563, 228	20	5 位	28,161.4	25 位

出典：「東京都における公立スポーツ施設 平成 29 年度」より作成

(3) 町田市スポーツ施設整備構想懇談会

2017年度に「地域の活性化に係るスポーツイベントの開催に関すること」や「みるスポーツの充実を図るために必要な施設の整備に関すること」について、スポーツ関係者等の意見を聴取するために、「町田市スポーツ施設整備構想懇談会」が設置されました。

懇談会での意見をとりまとめ、2018年3月に「町田市スポーツ施設整備構想 提言書」を町田市長に提出しています。

提言の基本的な方向性(総論)

① 「見るスポーツ」を楽しめる場づくりとスポーツを通じたにぎわいの創出

町田市内のスポーツ施設は「見る」視点での環境整備について十分な検討が行われてこなかった。

今後は、これまで以上に多くの市民がスポーツ観戦やスポーツイベントを楽しむことで施設内外のにぎわいを創出することを目指すとともに、新たな視点での課題の整理にも取り組み、「見る」スポーツを楽しめる場を創出していくことが望ましい。また、イベント等の実施にあたっては、予算の確保を企画段階から視野に入れて取り組むとともに、市民への情報の周知・PRに一層力をいれていくことが重要である。

② 「見るスポーツの場」と「するスポーツの場」のすみ分けを検討する

現在、「見るスポーツの場」と市民がスポーツ活動を行う「するスポーツの場」が混在している状況が見受けられる。特に体育館では施設の利用率が90%を超え飽和状態にあり、「見るスポーツ」と「するスポーツ」の混在も一因であることから、それらのすみ分けを行う方法を検討する必要がある。

③ ホームタウンチームにとっても魅力的な環境を整備する

町田市には市の貴重な資源といえる、国内のトップリーグに所属するクラブが3つあり、ホームタウンチームとしても活動している。

今後もホームタウンチームが活動していけるような魅力的な施設・環境を整えると同時に、チームが町田市民の誇りとなり、子どもたちの夢やあこがれとなるよう市がサポートする環境を一層充実していくことが望ましい。

④ 町田市の社会課題を総合的に解決していく拠点としての整備方針を検討する

「見る」スポーツ環境の整備にあたっては、施設周辺の住民の理解をはじめ、騒音問題や交通渋滞などまちづくりに関わる様々な社会課題に直面することが考えられる。

今後は、スポーツの魅力を活かすとともに、市内のスポーツ施設を町田市の様々な社会課題（健康づくり、共生社会の実現、産業振興等も含む）を「総合的に解決していく拠点」とするとともに、バリアフリー化やユニバーサルデザインの視点もふまえ、整備方針を検討していくことが望ましい。また、町田市内に波及していく影響を的確に把握する体制の整備も検討する。

⑤ 町田市のスポーツ施設それぞれの状況をふまえ、優先度の高い施設から整備の方針を検討していく

町田市の基本計画（「まちだ未来づくりプラン」）の後期実行計画である「5ヵ年計画 17-21」など、スポーツの環境整備にあたっては、市の事業等が進められている。

関連する市の計画期間等を基準として、短期的な視点と長期的な視点で状況を整理し、優先度の高い施設から整備の方針を検討していくことが望ましい。また、施設整備・運営にあたっては、行政だけでなく、民間資金の活用や広告等による収入なども視野に方針を検討する。

3. 町田市のスポーツ推進の課題

(1) スポーツへの関心喚起が必要

ライフステージに応じたスポーツ実施率向上の取組が必要

- ・スポーツ実施率は他の世代と比較して30歳代(47.8%)と40歳代(55.6%)が低い
- ・「現在はスポーツを行っていないが、6か月以内に始めようと思っている」市民は18.2%
- ・市が力を入れるべきこととして「身近なスポーツ参加の機会を増やす」という回答が25.3%で最も多い
- ・小中学生では、年齢があがるにつれて、スポーツが好きという回答が減っている。また、女子においてその割合が低い

スポーツ観戦機会の拡充が必要

- ・スポーツを「市内で観戦した人」は12.8%
- ・「みるスポーツ」を楽しめる場づくりが必要

より多くの市民にスポーツ情報を周知することが必要

- ・スポーツについて「情報を入力していない」市民は30.8%
- ・スポーツを市の魅力の一つとしてとらえ、情報発信を強化し、スポーツのまちというイメージの浸透を図る取組が必要

(2) スポーツを通じた健康づくりの取組が必要

- ・スポーツを行っておらず、これから先もするつもりはない市民は16.2%
- ・市が力を入れるべきこととして「健康・体力づくり」という回答が24.5%で2番目に多い
- ・健康のために意識的に身体活動量(生活+運動)・運動量を向上させる取組が必要

(3) スポーツを支える人材と組織の育成が必要

- ・多摩26市で比較すると、市の人口に対してスポーツ推進委員の数が少ない(26市中26位)
- ・スポーツを支える指導者やボランティアの育成とスポーツ関係団体の組織力の向上が求められている

(4) 市民の生活に身近なスポーツ環境の整備が必要

- ・市のスポーツ施設を「利用したことはない」市民は45.8%
- ・市のスポーツ施設に求めることとして「身近なところで利用できる施設の新設」という回答が40.4%で最も多い
- ・多摩26市で比較すると、市の人口に対してスポーツ施設の数が少ない(26市中23位)
- ・スポーツ広場は、地域住民と同様に、広く市民が利用できるようにする必要がある

(5) スポーツを活用したまちの活性化が必要

- ・スポーツ関係団体と連携した、スポーツを通じたまちの活性化・魅力向上やにぎわい創出が求められている
- ・ホームタウンチームの認知度に差がある
- ・ホームタウンチームにとっても魅力的な施設の整備が必要

スポーツ推進の課題

4. 課題対応の考え方

(1) 市民のスポーツへの参加機会を拡充する

市民の状況に応じたスポーツの参加機会の拡充

子ども、成人、高齢者といったライフステージに応じたスポーツ機会とともに、勤労者、子育て期の保護者、障がいのある人など、個人の生活の状況に応じてスポーツに参加できる機会を充実していく。

スポーツの魅力を活かした取組の推進

スポーツをしたくてもしていない層に向けた、スポーツによる美容・健康へのアプローチやスポーツのもつ力による心の健康づくりにも取り組んでいく。

仲間づくりやいきがづくりなど、競技スポーツとは異なる視点で、「スポーツに関心のない市民」にスポーツの参加機会を提供する。

(2) スポーツ実施につなげる人材、組織体制を拡充する

多様な人材の育成

レクリエーションスポーツ、競技スポーツ、障がい者スポーツなど、多様なニーズに応じて適切な指導を行うことができる人材を育成する。

スポーツを支える市民の育成・支援に取り組む。

スポーツ団体の育成

市民が主体となった地域スポーツクラブの活性化を支援していく。

市民の多様なニーズに応じたプログラムの充実など、組織的に市民のスポーツ実施につなげる団体を支援していく。

(3) スポーツ環境を充実する

市民の身近なスポーツ環境を整備

大規模なスポーツ広場は公のスポーツ施設として整備し、公のスポーツ施設を増やす。

市民の「身近なスポーツをする場」として、中小規模のスポーツ広場や公園等の既存施設の利用方法を見直し、スポーツ利用拡大に取り組む。

学校等と連携した地域の活性化

市内の小中学校、大学等と連携し、校庭や体育館の開放、スポーツ教室の実施など、行政と地域が連携してスポーツの場づくりに取り組む。また、個人の環境の変化に関わらず身近にスポーツに親しめる環境づくりにも取り組む。

トップレベルのスポーツを観戦・体感できる機会の提供

町田市は東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会において自転車競技ロードレースのコースの一部となっている。この機会を活かし、トップレベルのスポーツを観戦・体感できる環境づくりに取り組む。

ホームタウンチームにとっても魅力的な施設整備を検討する。

(4) スポーツを活用して町田の魅力を向上する

スポーツ情報の発信力の強化

「する」「みる」「支える」それぞれの視点に立ち、市民スポーツとトップスポーツの総合的な情報発信に引き続き取り組む。

スポーツを活用したまちの魅力向上

町内会・自治会等と連携したスポーツイベントを通じ、オール町田のにぎわいを創出する。

市民だけでなく、市外在住者も「町田がスポーツのまち」という印象を抱くように、スポーツ情報を市内外に発信していく。

ホームタウンチームと協働した市民の誇り、スポーツ気運の醸成

ホームタウンチームを支えるとともに、チームが市民の誇りとなるよう、気運醸成に取り組む。

